

2025年度 授業コード: 81101000

| | | | | | | | | | |
|--|---|----------|------|------------------|--------------------------------|------|----|-------------|----------|
| 授業科目 | *助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児) | | | | 実務家教員担当科目 | ○ | | | |
| 単位 | 1 | 履修 | 必修 | 開講年次 | 1 | 開講時期 | 前期 | | |
| 担当教員 | 古賀 玉緒/山田 恵/新郷 朋香 | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>正常および正常逸脱にある新生児・乳幼児の生理機能や成長発達の特徴、および家族の心理・社会的側面から母子一体の視点をふまえた愛着形成や家族構築にむけた助産ケアを学修する。さらに自己練習やグループワークに主体的に取り組み、新生児の正常な胎外生活適応に向けた日常生活ケアや診察技術を習得する。</p> <p>以上のことについて、実務家教員として臨床で医師・看護師・助産師としての実務経験を有する教員が教授する。</p> | | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | 授業方法 | ディスカッション、グループワーク | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児・乳幼児の生理機能や成長発達の特徴、その家族の心理・社会的特徴や変化について根拠に基づき説明できる。(DP1-1, DP2-1) 2. 新生児・乳幼児の胎外生活適応過程や成長・発達・愛着形成に向けた助産ケアを根拠をふまえて説明できる。(DP1-1, DP2-1) 3. 新生児・乳幼児の健康状態を把握するための基本的な診察技術やケアを安全安楽に実施できる。(DP2-2) 4. 新生児・乳幼児課題についての解決策を見出すために取り組むことができる。(DP3-1) 5. 新生児・乳幼児のケアを実践するうえで助産師として必要な倫理的態度を説明できる。(DP3-2) 6. 治療を要する新生児・乳幼児および家族のケアについて説明できる。(DP1-1, DP2-1) | | | | | | | | |
| 理想的レベル | 標準的レベルに達したうえで、新生児や乳幼児に関する課題や対象のケアのために必要な自己の知識や技術の向上を目指して主体的に自律して学習に取り組むことができる。 | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | 評価割合(数値) | | | 備考 | | | | |
| 試験 | | 65 | | | 0 | | | | |
| 小テスト | | | | | | | | | |
| レポート | | 5 | | | 0 | | | | |
| 発表(口頭、プレゼンテーション) | | 25 | | | 0 | | | | |
| レポート外の提出物 | | | | | | | | | |
| その他 | | 5 | | | 授業における発言や積極性、レポートの提出状況にて評価します。 | | | | |
| カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング | | | | | | | | | |
| DP1 | - | DP2 | - | DP3 | - | DP4 | - | ナンバリング | MI21204J |
| 学習課題(予習・復習) | | | | | | | | 1回の目安時間(時間) | |
| 教科書や参考文献のテーマに該当する箇所を読み、重要箇所を下線や付箋を示し講義に臨む。 | | | | | | | | 1 | |
| 授業計画 | | | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| 第1回 | <p>新生児のケア（1）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児期および乳幼児期における助産師の責任およびケアの基本について解説する。 ・新生児の胎外生活への適応の診断とケアおよび常逸脱予防についてのケアについて解説する。 |
| 第2回 | <p>新生児のケア（2）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児の成長および発達について解説する。 |
| 第3回 | <p>新生児のケア（3）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児の養育環境について解説する。 -施設における環境、自宅における環境について- ・退院後1か月までの新生児のアセスメントおよびケアについて解説を行う。 |
| 第4回 | <p>新生児のケア（4）（古賀玉緒 山田恵 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児期の助産技術を学ぶ。(1) 計測機器や視聴覚教材を活用しながら診断技術や生活援助技術を学ぶ。 各診断技術の方法を確認しながらグループメンバーと協力しディスカッションをもちいながら技術演習を主体的に取り組む。 -バイタルサイン、身体計測・沐浴、児頭計測など- <p>なお、第4回と第5回は連続して行う。</p> |
| 第5回 | <p>新生児のケア（5）（古賀玉緒 山田恵 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児期の助産技術を学ぶ。(2) 計測機器や視聴覚教材を活用しながら診断技術や生活援助技術を学ぶ。 各診断技術の方法を確認しながらグループメンバーと協力しディスカッションをもちいながら技術演習を主体的に取り組む。 -バイタルサイン、身体計測・沐浴、児頭計測など- |
| 第6回 | <p>新生児のケア（6）（古賀玉緒 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児期の助産技術を学ぶ。(2) 各自の課題を中心に演習に取り組む。 |
| 第7回 | <p>新生児のケア（7）（古賀玉緒 山田恵 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児期の助産技術を学ぶ。(3) 新生児の診断技術や生活援助に関する技術試験を実施する。（技術チェック） |
| 第8回 | <p>乳幼児のケア（1）（外部講師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院後の新生児・乳幼児の特徴（身体的・心理的成長発達、栄養）について解説する。 ・退院後の乳幼児の主な疾患・治療について解説する。 |
| 第9回 | <p>乳幼児のケア（2）（看護学科 樋口由貴子）</p> <p>乳幼児の発達の促進にむけたケアについて事例を活用してディスカッションをふまえて解説を行う。</p> |
| 第10回 | <p>乳幼児のケア（3）（看護学科 樋口由貴子）</p> <p>乳幼児の発達の促進にむけたケアについて事例を活用してディスカッションをふまえて解説を行う。</p> |
| 第11回 | <p>低出生体重児・早産児のケア（1）（外部講師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NICUの概要について説明する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| | ・低出生体重児および早産児の特徴について解説する。 |
| 第12回 | 低出生体重児・早産児のケア（2）（外部講師） ・低出生体重児および早産児の疾患や治療について解説する。 |
| 第13回 | 低出生体重児・早産児のケア（3）（外部講師） ・新生児の主な疾患と治療について解説する。 |
| 第14回 | 低出生体重児・早産児のケア（4）（外部講師） ・NICUにおける母子のケアについて解説する。 |
| 第15回 | 低出生体重児・早産児のケア（5）（外部講師） ・クベース管理の児のケアを実施する。（バイタルサイン測定、移動、注入、体位交換、ディベロップメンタルケアについて） |
| テキスト | 必要に応じて資料を配布します。 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | レポートや提出物についてはコメントを添えて返却します。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 看護基礎教育で学んだ母性看護学および小児看護学に関する知識や技術（目的や正しい手技）を復習して講義に臨んで下さい。 助産学実習へむけて必要な知識・技術を学びます。講義・演習では、主体的に参加し、演習時は身だしなみを整え、円滑に展開できるよう準備・後片付けも自主的に行って下さい。 原則、授業中は携帯電話の使用を禁止します。（授業で活用する場合は指示をします） 感染予防ガイドラインを遵守し感染予防に努めましょう。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | |